

2024 年度 学校法人 三幸学園 大阪ビューティーアート専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 島田 美穂子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

●前年度重点施策振り返り

- ・学校が「楽しい」と感じる事、様々な環境の生徒に合わせた集団の中でも学べる環境づくりを意識した取り組みを行った。具体的には、ハロウィンなどの愛校心をはぐくむイベントや、美容業界のプロによる講話やデモンストレーションを年間通して実施することにより、向上心や意欲が途切れないよう取り組みを行った。
- ・メンタル面でのサポートにおいては、集団の中で一人になれる環境を設置（一人スペース）し、教室にいる事がしんどいと感じた時に逃げられるスペースを作った。
- ・トータルビューティー科の1年生は入学前にアンケートを取り、週4日クラスを設置し、クラス運営をはかった。
- ・授業レベルの向上として、リアルとデジタルを組み合わせたオンデマンド配信、デジタル教科書の採用など、ICTを活用した授業展開も継続すると共に、国家試験の課題対策としてVRゴーグルを活用した実習授業、AI搭載のデジタル問題集を導入するなど、今まで以上に予習や復習がしやすい教育スタイルを実現した。教員も使い方に慣れてきたことと合わせて、必要性やよりよい活用方法を見出すことが出来てきた。今後、ネイルなども導入し幅広くICT教育を行っていく。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

専門学校での教育を進めていく中で、生徒本人の美容を学びたいという気持ちがとても大切である。しかし、入学当初より夢があり目的や目標を持って入学してくる生徒も多いが、反面少数ではあるがなんとなく美容が好きという観点で入学してくる生徒もいる。入学後のオリエンテーションから学校での目標に留まらず、将来の自分の姿を想像し美容業界で働くことが楽しみになるように授業、行事の両面から生徒たちをサポートする必要がある。

② 今後の改善方策

- ・一流のプロによる講話や技術のデモンストレーションなど、2年間の教育の流れを点ではなく繋がりを持たせ向上心や意欲が途切れないようサポートしていく。
- ・上位層の生徒たちの活躍の場として、様々な委員会に加えて、コンテストにも力をいれていく。また、先輩が後輩に施術を行うなど、身近な存在から目標を立てる、モチベーションを上げるなどの機会も設けていきたい。
- ・保護者理解においては、入学前に対面にて新入生保護者説明会を実施し学校教育の理解を深めていきたい。

③ 特記事項

三幸学園の教育理念 『技能と心の調和』の共有

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

教員数も約150名人と多く、情報伝達に時間がかかる。年に数回実施される全教員での会議だけではなくMicrosoft Teams やメールなどを駆使し速やかな情報発信を実施しているが、周知するのに時間がかかってしまう側面もある。SDGs も含め紙書類を少なくしていく動きも取る為、教員もPC やiPad 等の使用をメインとして進めていけるようにしたい。その先駆けとして以前より紙であった出席簿をデジタルし、教員も使用方法には慣れつつある。しかし一部記入漏れなどのミスはあるので授業担当だけではなく担任メンバーや教務事務もタイムリーに把握を行えるようにしていきたい。

② 今後の改善方策

WEB 出席簿をさらに定着させていく。人的ミスと教務事務の作業効率化を目的として実施し始めたが、導入によりタイムリーに出席状況がデータベースで出力可能になった為、学校運営にさらに繋げていけるようにしていきたい。連絡手段が便利になる一方で、一方的な情報伝達にならないよう、方針や方向性など思いや考えを伝える場として、教科会の実施方法を工夫しより密なコミュニケーションをとれるよう実施して行く必要がある。

また、2025 年から学校事務の中でも経理の機能については各校対応ではなく、地域で集約し学費・奨学金・経費などの管理が出来る体制が出来た為、よりミスなく経理業務を円滑に進められる予定。

① 特記事項

なし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

サロンワーク授業において、産学連携の一環として、外部で実際に希望者にネイルなどを実施する機会を設けた。生徒にとって、直接「ありがとう」といっていただける事は大変刺激になりモチベーション UP に繋がった。今後、学びにおいて外部講師からの指導を受けられる機会も増やしていきたいが、現状少ないため協力していただける企業様を増やしたい。また、現役の美容師の方や美容業界で企画運営をされている方などをお呼びし、学生のモチベーションが上がる現場の「リアル」な話を聞ける機会を設け、あわせて教員も講話により今の現場の声を知り知識をアップデートしていきたい。

② 今後の改善方策

トータルビューティー科は特にサロン様との交流の機会を増やし、自分達が努力して取得した資格を活かして、業界で働くイメージや自信をつけさせたい。

2025 年 4 月は、1 年生は通常授業が始まる前に、特別授業をもうけて卒業生のデモンストレーションを見る時間を設けた。学びを楽しみに出来、退学防止に繋がる事を期待している。

② 特記事項

なし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

全学科、退学者が増加している。主な退学理由として、目標喪失による退学となる。就職活動に向きあうにあたって進路に悩み異なる業界へと考える生徒が増えている。

また、通信制の出身の学生は登校する事自体レベルの高さを感じており、通信制の退学理由は心身耗弱が高い傾向がみられる。2023・2024 年共に、全体の退学率は約 13%となっている。

② 今後の改善方策

学校に遅刻や欠席をし、周囲とうまくコミュニケーションがとれるか不安になる生徒も増え、早期発見が出来ないと退学に繋がることもある。人前で注意を受けることだけではなく、褒められることも苦手な生徒が増えている。教員自身の生徒への対応方法のレベルアップを図りながらも、前向きに取り組んでいる生徒たちへコンテストの機会も増やしつつ、個へのアプローチにより退学を減らしていく。個人にあった学び方を選択できる機会も設けていきたい。また、2025 年からはトータルビューティー科では週 4 日登校の設置、ハイフレックス授業といった座学授業を受ける事が難しい生徒の集団の中で一人になることが出来る、一人集中スペースといったものを学内に設置する。

③ 特記事項

なし

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

自分の考えにあったサロンマッチングやキャリアプランを構築しそれにあつた企業様へのエントリーを進められるよう、年間通して企業様と接する機会を多く設けた。このようなマッチングをしっかりと実施し企業様にとっても求める人材が就職できるようにすすめたい。動き出しの遅い生徒も、選び方を理解することでスムーズな就職活動が出来るようになる。最近では、多様化に伴い様々な場面で合理的配慮が必要な生徒が増えているので、対応が出来るようにしていく必要がある。

② 今後の改善方策

トータルビューティー科の特にメイクの求人が活発化してきているとはいえ、希望者人数も増えている中で 1 人でも多くの生徒が、希望企業での内定をもらえるよう、教員のサポートが今まで以上に大切になっていくと感じる。合理的配慮に関しては、どのような配慮が必要なのかを教員が把握し統一した指導や対応が出来るように、昨年度に引き続き報告用紙をまとめて作成する。

③ 特記事項

なし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

海外研修では韓国研修もしくはヨーロッパ研修を選択することができ、参加者の満足度はとても高かった。海外のプロの方からの学びは非常にいい機会になったと感じた。

また、基本的な接客スキルを身に付ける機会を日ごろから増やしたいと考える。授業を通して習慣化できるように促したい。

② 今後の改善方策

学びのきっかけは多方面で与えてはいるが、研修の希望者が少ない様に感じているため、学生だからできることや、将来に繋がることをイメージさせる導入が必要と考える

③ 特記事項

なし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

今後も適切に運営されているため最善な状態を保つ

② 今後の改善方策

平等性を保ちながらも、受験者が受験方法を選べることを明確に伝え、学校都合ではなく受験者にとって適正な受験方法を提案できるように職員が統一認識を持つようにしている。

③ 特記事項

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

適切に運営されているため最善な状態を保つ

② 今後の改善方策

引き続き法令等遵守をしていく

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

外部でのボランティアを多く実施し、生徒たちの技術披露の場を設けた。また、産学連携を強化したことにより地域の盛り上げにも貢献した。しかし、美容関係で多くのボランティアやイベントにお声がけいただくが、実際にお互いにとって win-win になるボランティアの精査を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

生徒が実施するサロンワーク授業などで、地域の方や広く一般の方にぜひお客様として学校にお越しいただきたいと考えている。まだまだプロの技術というわけにはいかないが、かなり技術力も上がった生徒たちの接客や技術を是非受けていただきたい。その上で、学校としても企業連携を深めより生徒にとって学びとなり、地域にも貢献できるものを取り入れていく。

③ 特記事項

なし

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

毎年、数名留学生が入学する。日本での就職を希望しているが、就職支援が難航している。言葉の問題というよりは就労ビザの問題が大きい。併せて日本語の難しさから学ぶことにモチベーションが下がる生徒もいる。

② 今後の改善方策

引き続き、受入れ可能な企業様にご依頼する。

また、同じ留学生の上級生との交流を実施し、語学問題含め日常の悩みなどを相談できる場も作って行きたい。

③ 特記事項

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・今年も姉妹校への進学希望者が増加しており、特にビューティー校への関心が高まっている。一方で美容業界には理想と現実のギャップがあり、それを理解しないまま進むと早期離職の原因にもなる。業界の厳しさやリアルな働き方も伝える責任がある。夢を応援しながらも現実的な視点を持たせることが、生徒の将来を守ることに繋がる。
- ・専門学校に入学後間もない時期に企業説明会の参加希望があり、企業に関心を持つ学生も現れ始めており、早期意識の高まりは非常に良い傾向である。実際にはご縁がなかったとしても、そうした姿勢を持つ生徒が増えている。エステ業界は需要と供給のバランスから、学生側が企業を選べる時代になっている。
- ・SNS や AI カウンセリングなど最先端の企業に魅力を感じる生徒もあり、学んだ内容と現場の選択が一致しないことある。複数内定(4社)を得た学生もあり、選ぶ基準は給与や企業の姿勢、自己分析の深さによって変わる。中には面接の場で「第三希望です」と正直に話す生徒もあり、企業が戸惑うケースもある。自己分析をしっかり行っている生徒は、給与・社風などを冷静に比較して選択できている。
- ・最近は挨拶が出来ない生徒も見られ、基本的なことの大切さを改めて感じる。当たり前のことを当たり前に行うことこそ素晴らしいことだと感じる。技術が未熟でも、セミナーなどで礼儀正しい生徒は「〇〇の学校の子はすごい」とサロンから評価される。そうした姿勢に「この子を育ててあげたい」という気持ちが生まれる。これはどれだけ時代が変わっても教育の根本として大切にしたい部分である。
- ・数字の書き方・領収書の書き方・所作・電話対応・メモの取り方など、一見「当たり前」と思われがちな基本動作を丁寧に教えることが大切だと感じた。大人が「出来て当然」と思っていることほど、学生にとっては新鮮な学びになる。授業や指導に“プチ豆知識”を加えることで、興味や理解が深まる効果も期待できる。実践的・現場で役立つ知識とマナーの習得が即戦力の第一歩となる。

以上